

(二〇一八年度)

2 国 語 問 題 (六〇分) (この問題冊子は16ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しすぎはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

—
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

植物に数多くの種があり、それが客観的に区別できるといっただけでは、私が桜を区別する理由にならない。植物に特別詳しいわけでもない私は、ほかの街路樹はひとまとめに「樹」としてしか認識しない。たとえば桜の隣のこの樹は、ケヤキという種に属しているが、その樹がケヤキであるということは、樹に樹木名を書いた札がつるしてあるのでやつとわかる。私がその樹の名を知らないのは単に知識の不足ということではなく、そもそもその樹の名前をとりたてて知りたいという気がおこらないからである。それに対し私は、桜などのいくつかの樹種だけは、ほかの樹からとりたてて区別して認識できるが、それはそれらの樹に注目し、名前を知りたいと思っただけからである。桜の花の美しさに私が目をひかれるから、それによって桜がほかの樹木の種からとりたてて注目されることになる。桜の識別を動機づけるのは、桜のもつ私の生にとつての意味である。識別の動機をなす主観的意味が、木肌や葉の形といった識別の特徴に前提される。

外面的識別特徴よりも、私にとつての価値が先行するわけだが、後者を桜の「本質」と呼んでもよからう。「本質」とは一般に「そのものをそのものたらしめる性質」といえるだろうが、桜を桜にしているのは、木肌の特徴や葉の形でなく、「桜特有の美しい花を咲かせること」である。これが本質の具体的規定であり、この本質が桜をほかの樹木から区別する動機をなす。その区別のための、花の咲いていないときの代用的な手段として、木肌や葉の形などの別の特徴が使われるのである。

³ この「桜特有の美しい花を咲かせること」という本質を、「桜に特有の花をつけていること」と理解することはできない。桜の花は年間にわずかに、二週間のものでしかないからである。花をつけていることを桜の本質とするなら、他の時期の桜は桜でないことになる。それでは、「桜特有の花をつける可能性がある」ということと理解するべきであろうか。夏の桜の樹も、この可能性を備えているから、桜の本質をみたとすというわけである。しかしそうだとすると、桜の「本質」をなす特徴は可能性であって、現実の知覚に現れているとはかぎらない。私はその知覚に現れていない可能性にもとづいて、葉の生い茂った夏の桜の樹を桜として規定するということになるのだろうか。

この場合、次のような例をどう考えるべきかが問題になる。私は枯れた桜も桜として見る。しかしその樹は花を咲かせる可能性をまったくもたない。単なる客観的事実として可能性を失っているということだけでなく、私もそのことをよく知っている。にもかかわらず私はそれを「桜の枯れ木」として見る。花の可能性から本質を考えることが誤りだったのだろうか。それとも今の場合は本質を欠いていて本来の意味では桜ではないが、別の理由で桜と称されているだけなのだろうか。

たとえばあのような理解——桜の本質を欠くが桜と称されているだけだという理解——に該当するのが、その枯れ木は「元は(花をつける可能性をもつものとしての)桜だった」という、因果的な了解だけから(桜の本質を欠くの)に桜と呼ばれているという見方である。しかしおなじように因果的な連続性があればどういふものでも元のものとの連続性においてとらえるわけでもない。このイスがどういふ木でできているかを私は気にしない。だとすれば、花の可能性でない、別の観点から本質を規定しなおすべきであろう。

この枯れ木を桜の枯れ木として理解する私は、桜として見る特別な主観的理由をもつからそうするのである。桜であることに注目する私は、そこに失われた開花の可能性を、惜しむべきものという価値づけにおいて見てとる。しかしそういう意味で、花をつけるという失われた可能性が私にとってその樹の価値評価の中心である。私はそういう失われた花の可能性にかかわる態勢をもって、惜しみつつその樹に対する。

先の(暫定的)本質定義が示すように、この可能性は単なる論理的可能性でなく、桜を桜とする特権的な可能性である。可能性が失われたときでさえ、枯れ木を私はその可能性から見る。その特権的可能性は「目的」ということばで言い表せるのではないだろうか。枯れ木を惜しむ私にとって、桜はむしろ「花を咲かせるためのもの」と見なされている。そのものの本質をなす目的である以上、それを達成することはそのものの存在価値である。だから私はその目的が達成できないことを、その樹の存在価値が無くなったと惜しむのである。しかしながら目的を達成できる可能性がなくても、そのものがそれを目的としていることと矛盾はない。価値の無は存在の無ではない。桜の枯れ木も花をつけるためにあった。その可能性が失われたとしても、そのためのものだということが消えてなくなるわけではないのである。

目的性における規定は可能性よりはつきりと価値的、主観的である。可能性とはそれ自体では価値に中立的な概念である。しかし目的性は主観的な色彩をまぬがれない。客観的にはものがもつはずがない目的をものの上に想定するわけであるから、その目的はある意味私が生かすものにあてたものである。そういう意味で主観的色彩をまぬがれない。しかし私はその目的性との関連において枯れ木を見る。これは現象学的事実である。

桜を桜としている「本質」は、「花をつける」という可能性をもつことではなく、「花をつけるためのもの」ということである。というのも、桜の樹は花をつける可能性だけでなく、枯れる可能性、葉をつける可能性等々、多くの可能性をもつ。しかしながら数ある可能性のなかで花をつけるという可能性がそのものの特権的な可能性、そのものの存在価値だと私には意識される。それが桜の目的なのである。その目的をもつかぎり、桜である。それはその目的が実現できなくなってもおなじである。

⁸可能性という、ある意味中性的な概念より、目的というもつと明確に主観的な概念を使った方が、枯れ木なども含む広い範囲で本質の問題を扱うことができる。

ただ、注意すべきは、桜の「目的」というときの「目的」は、道具の場合に念頭におかれているような、私の意図的行動のための目的とおなじものではないということである。桜のことを、花を咲かせるためのものと見なすのは主観的であるが、その「ため」は必ずしも私がめざす目的と一致するとはかぎらない。また、道具の場合は、私が使わないし使うこともできないがどいう用途か知っている道具のように、ひと、一般がめざす目的ということもありうるが、こういうことでもない。むしろ桜自体が、開花をめざしているのだと、私には感じられる。もちろん、樹木がそういう目的を真に内在させているのではないから、ある意味私が生かすものだけである。私はこのときものを「目的論的に理解している」といつてよい。

ただし、道具についても、道具自体が使われることをめざし、求めていると感じられることがないわけではない。その限りでは、私の注目している目的を道具がもつことはありうる。

問一 傍線部1の「私が桜を区別する理由」として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 他の街路樹と違って、桜はその名前を知ろうとする関心を自ら生じさせる。
- b 他の街路樹と違って、桜は人間の生にとって意味のある美しい花を咲かせる。
- c 他の街路樹と違って、桜は個人が固有の関心をもつだけの特徴をもっている。
- d 他の街路樹と違って、桜は識別ができるだけの特徴的な美しさをもっている。

問二 傍線部2の意味として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 木肌や葉の形は、桜のもつ主観的意味以上に識別の特徴をなす。
- b 木肌や葉の形は、動機を必要とすることなく桜を識別するための特徴になる。
- c 木肌や葉の形は、他の動機にもとづいて桜を識別する際の特徴となる。
- d 木肌や葉の形は、桜を動機によって識別する際の前提となる特徴である。

問三 傍線部3にある、「花を咲かせること」という本質の意味として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 特有な美しさをもった花を現に咲かせていること。
- b 他とは異なる固有の特徴をもつ花を咲かせること。
- c 美しい特有の花を咲かせる時期がきまっていること。
- d 人が特に目を引かれて美しいと思う花を咲かせること。

問四 傍線部4にある、「別の観点」から桜の本質を見る見方として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 桜の花が咲く可能性を、自分の特有な価値観の中で理解する。
- b 今では枯れてしまった木だが、以前は桜だったと理解する。
- c 花を失った枯れ木を、咲いていた桜と連続させて理解する。
- d 桜の花が咲く可能性に、自分の気分を重ね合わせて理解する。

問五 傍線部5にある、「特権的な可能性」の意味として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a たんに論理的な可能性を超えて、目的から見た存在価値によって理解された場合の可能性。
- b たんに論理的な可能性ではなく、そもそも存在の本質をなしているような価値の可能性。
- c たんに論理的な可能性ではなく、とりわけ価値評価を目的として見られた場合の可能性。
- d たんに論理的な可能性を超えて、そのものの本質的な存在価値にもとづいている可能性。

問六 傍線部6の「価値の無は存在の無ではない」の本文における意味として、適切でないものを一つ選べ。

- a もはや花を咲かせられなくても、枯れ木には花の可能性にかかわる意味が残っている。
- b 花が咲くか咲かないかは、花を咲かせるという目的の有無にかかわらず価値をもつ。
- c 花が咲くことに意味があるということは、現に花が咲くかどうかには関わらない。
- d 枯れ木はもはや花を咲かせられなくても、花を咲かせるための木だったとは言える。

問七 傍線部7の「現象学的事実」の本文における意味として、適切でないものを一つ選べ。

- a 枯れ木に以前はあったはずの価値を思いながら見ているときの事実。
- b 枯れ木に存するように見える目的を想像しながら見ているときの事実。
- c 枯れ木を自分にとって意味のあるものとして見ているときの事実。
- d 枯れ木そのものもっている可能性との関係で見ているときの事実。

問八 傍線部8に述べられている「可能性」と「目的」の概念について、以下の説明からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 「可能性」は花をつけるという事実の特権的価値にもとづき、「目的」は花の固有の価値にもとづく。
- b 「可能性」は花をつけるという事実の特権的価値にもとづかず、「目的」は花の存在価値にもとづく。
- c 「可能性」は花をつけるという事実の特権的価値にはもとづかず、「目的」は私の価値評価にもとづく。
- d 「可能性」は花をつけるという事実の特権的価値にもとづき、「目的」は私の意図的行動にもとづく。

問九 傍線部9にある、「目的論的」の意味として、もっとも適切なものを一つ選べ。

- a 私が主観的に感じて想定しているだけの目的性。
- b そのものに内在しているような客観的な目的性。
- c そのものに関して一般的にめざされる目的性。
- d 私が意図的にめざそうとしているような目的性。

問十 本文における筆者の主張に一致するものを二つ選べ。

- a 目的論的に見るとき、自分の目的を達成することは、そのものの本質を完成させることにもなる。
- b 態勢とは、客観的な事実について、私が主観的にかかわり価値評価をしようとする態度である。
- c ものごとをそれたらしめる本質を知りたければ、目的の概念を使って考えることが不可欠になる。
- d あるものの本質とは、そのものが本来、自然的にもっているような、特有な特徴のことである。
- e 外面的な識別よりも、私の主観的な価値評価によって、ものの本質は明確に知られるようになる。
- f 目的論的理解とは、私の具体的体験にもとづきつつ、対象の傾向に目的性を感じることである。

二

次の文章は、香川景樹が賀茂真淵の『新学(にひまなび)』を一段ごとに批評したものである。これを読んで後の間に答えよ。

しかれば、古への上を知らる上に、今その調の状をも見るに、大和国は丈夫国にして古へはをみなますらをに習へり。かれ、万葉集の歌は凡丈夫の手ぶりなり。山背国は手弱女国にして丈夫もたをやめをならひぬ。かれ、古今集の歌は専ら手弱女の姿なり。

按ずるに、大和の国を丈夫風、山城の国を手弱女風の国なりといへるは、ただ世の聴を驚かすのみならず、且その徴ありげなば、誰もさこそと思ふ。まことその説の如くならんには、後世も大和の国は丈夫風なる

国は手弱女風なる。理りなり。然るに、古へは大和も山城も丈夫風にして、後は山城も大和も手弱女風なるはいか

に。いと怪しむ。また次に、つよかたきを丈夫風とし、のどかにさやかなるを手弱女風とせるも従がたし。こは、御世御世流行るすがたありて、万葉集の頃は質朴にして木強く、古今集の頃は文華に移りて清柔なるべし。さるは、時運の

しかる所にして、唯一国の上にかけて論らふべき限りにはあらず。所謂さやかなるは文華の風化にしておのづから都風なるべく、強きは質朴の氣象にしておのづから鄙俗たるべき理りなり。その世の情態かくいささかも偽りなきぞ道の正しき調なり

ける。されば文も質もその実にしもかなはば、孰れをとりいづれを捨てん。然れども、つよき世はつよきながらにして女歌はめめしく、さやかなる世はさやかならにして男歌はををしく、その躰さらに同ふべきものに非ず。昔今の風俗を

かたるに、男女をもていへるはいとも惑はしくて比類を得ずといふべし。この論なほ次にいへり。

仍て、かの古今歌集に六人の歌を判るに、のどかにさやかなるを姿を得たりとし、

按ずるに、是は彼の序に「僧正遍昭は歌のさまは得たれどもまこと少なし」とあるをいへり。こは歌仙の上につきて且くそ

の得失を論らへるにて、実^{まこと}少^{すくなく}なしといへるに對^{むか}へて、その躰をば得たりといふのみ。この躰をと抽出^{ぬきだ}でて世の標準とせられしには非ざるなり。されば、余^{まが}の歌仙はその躰を得ずといふには非^あず。各^{おのづか}ざるべき躰なからんや。中に就きて遍昭^{へんせう}にのみ取立ててそのさまをいふべき謂^{いは}れあり。その歌を味はひて知るべきものなり。また、遍昭^{へんせう}の歌は澹^{たん}率^{そつ}たる調はあれど優閑^{ゆうかん}なる躰はなし。すべて往古の歌をかたしといひ、後世の歌をのどかなりといへるも、うちまかせては的^{あたら}當^{あた}ぬ事なり。されどまた、つよしといひさやかにかなりといへる、傍^{わが}らのみは且^{かつ}く得^かざるにもあらねば、いへるに従^{まか}て論^{ろん}じおきぬ。

(香川景樹「新学異見」)

問一 傍線部「さこそと思ふ」とはどういうことか、次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 意外な思いつきであると感じする。
- b なるほど言う通りであると納得する。
- c 世間を騒がすだけであると呆^{あま}れる。
- d 特色ある考えであると支持する。

問二 空欄 p・q・r・s に入る語を次の中からそれぞれ選べ(重複選択可)。

- a べから
- b べく
- c べし
- d べき
- e べけれ

問三 傍線部2「唯一国の上にかけて論らふべき限りにはあらず」と述べるのはなぜか、次の中からもっとも適切なものをつ選べ。

- a 時代的特色と地域的特色をはき違えているから。
- b 上代は女性の歌の詠みぶりも男性風であったから。
- c 万葉集内部でも歌風には時代差があるから。
- d はやりすたりは一時的なものであるから。

問四 傍線部3「その実」とは、ここではどういうことを指しているか、次の中からもっとも適切なものをつ選べ。

- a それぞれの時代の持つ類型的特徴
- b それぞれの歌に内在する感情
- c それぞれの国の風土の差異
- d それぞれの華やかさと飾り気なさ

問五 傍線部4「昔今の風俗をかたるに、男女をもていへるはいとも惑はしくて比類を得ず」とするのはなぜか、次の中からもっとも適切なものをつ選べ。

- a 質朴で田舎風なのが男性的であるというのは、一面的な考えに過ぎないから。
- b 山城が都となるのは後代のことであり、万葉の時代は大和が都であるから。
- c 男性的な気風の時代の歌であっても、女性の詠む歌は女性的であるから。
- d 風雅を女性的特徴、質朴を男性的特徴とするのは無意味だから。

問六 傍線部5「六人の歌」とあるが、六歌仙以外の歌人を次の中から二人選べ。

- a 高市黒人
- b 在原業平
- c 文屋康秀
- d 喜撰法師
- e 小野小町
- f 紀友則
- g 大伴黒主

問七 傍線部6「彼の序」とあるが、作者は誰か。次の中から一人選べ。

- a 紀貫之
- b 紀淑望
- c 壬生忠岑
- d 醍醐天皇
- e 賀茂真淵

問八 傍線部7「まこと少なし」とはどういう意味か、次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 事実が乏しい。
- b 実感が乏しい。
- c 誠意に欠ける。
- d 面白味に欠ける。

問九 傍線部8「傍らのみは且く得之かなはざるにもあらねは」とはどういう意味か、次の中からもっとも適切なもの一つ選べ。

- a 真淵の説く類型的特徴は見当外れであるものの、個人的特徴については当たらずとも遠からずなので、
- b 真淵は歌の個人的特徴を曲解しているが、歌を一面的に見ればその一部は的を得ているので、
- c 真淵の言う時代様式の差異は一方的な見方に過ぎないが、大筋としては間違ってもいないので、
- d 真淵の言う類型的特徴は一概に支持することはできないが、一理はあるので、

問十 次の語の中から、万葉集の特徴をA、古今集の特徴をB、それ以外の特徴をCとせよ。

- a 枕詞・序詞
- b 幽玄
- c 婉曲表現
- d 五七調
- e 理知的・観念的

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の關係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

孔子行遊。馬失、食農夫之稼。野人怒、取馬而繫之。子貢往說之、

卑辭而不能得也。孔子曰、「夫以人之所不能聽說人、譬猶以

大牢享野獸、以九韶樂飛鳥也。予之罪也、非彼人之過

也。」乃使馬圉往說之。至見野人曰、「子耕於東海、至於西海。

吾馬之失、安得不食子之苗。」野人大喜、解馬而與之。說若此其

無方也、而反行。事有所至、而巧不若拙。故聖人量鑿而正柄。

夫歌采菱、發陽阿、鄙人聽之、不若此延路・陽局。非歌者拙

也、聽者異也。故交画不暢、連環不解。

〔淮南子〕人間訓

〔注〕○稼―穀物。 ○大牢―豪勢なごちそう。 ○九韶―立派な音楽。 ○馬圍―馬飼い。

○鑿、柄―木材を接合するために、一方の端に作る突起が「柄」(ほぞ)、これを差し込むため他方に空ける穴が「鑿」(ほぞあな)。 ○采菱、陽阿、延路、陽局―いずれも曲の名。 ○暢―伸びる。

問一 傍線部1「以人之所不能聽説人」の口語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 他人には聞こえないような声で、人を説き伏せようとすることは
- b 他人ができないということをし、無理に聞き入れてもらおうとすることは
- c 相手の所へ乗り込んでいったのに、説明を聞いてもらえないことは
- d 相手が理解できないようなことを言いつ、その相手を説得しようとすることは

問二 傍線部2「彼人」は誰を指すか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 孔子
- b 農夫
- c 子貢
- d 馬圍

問三 傍線部3「安得不食子之苗」はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a あなたの作った穀物を食べないわけにはゆかない。
- b これ以上あなたの畑の穀物は食べないから安心して欲しい。
- c 何も食べていない馬が穀物を食べてしまったのは仕方がない。
- d どうして馬が孔子の穀物の方を食べなかったのだろうか。

問四 傍線部4「大喜」の理由は何か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 孔子の弟子である子貢をやりこめることができて痛快だったから。
- b 馬圍が孔子のことを馬鹿にするようなことを言ったのが面白かったから。
- c 巧みにお世辞を織り込んだ言い訳を聞いて気分を良くしたから。
- d 孔子が自分の非を認めて率直に謝罪してきたことに感動したから。

問五 傍線部5「方」と同じ意味で「方」の字が用いられている語はどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 方角
- b 方策
- c 方形
- d 方言

問六 傍線部6「延路・陽局」とはどのような曲だと読み取れるか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 采菱・陽阿よりも人気がある、優れた曲。
- b 采菱・陽阿よりも野暮つたい、品のない曲。
- c 誰にでもそのすばらしさが理解できる曲。
- d 聞く人によって評価が分かれる個性的な曲。

問七 傍線部7「交画不暢、連環不解」はどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 複雑に交錯した線やいくつも連なった輪のように、どんなに思慮を尽くしてもうまく解決できない問題がある。
- b 複雑に交錯した線やいくつも連なった輪のように、物事の道理を理解しない人間を相手にするのは厄介だ。
- c 複雑に交錯した線やいくつも連なった輪のように、あらゆる事柄は連続性を持ち、分ちがたく結びついている。
- d 複雑に交錯した線やいくつも連なった輪のように、どちらが原因でどちらが結果であるかは、簡単には見極められない。

問八 『淮南子』は雑多な内容を含むものの、道家的傾向が強い書物とされる。次の中から道家に関する書ではないものを一つ選べ。

- a 莊子
- b 列子
- c 春秋左氏伝
- d 列仙伝

